1.選んだ本の書誌情報

前田健太郎 『女性のいない民主主義』 岩波新書 2019年

2.目次

第1章 「政治」とは何か P1

- 1 話し合いとしての政治 P2
- 2 政治における権力 P7
- 3 マンスプレイングの罨 P 23
- 4 政治の争点 P 32
- 5 多数決と終点 P 41

第2章 「民主主義」の定義を考える P 53

- 1 女性のいない民主主義 P 54
- 2 代表とは何か P 66
- 3 民主化の歴史を振り返る P 74
- 4 民主化の理論と女性 P 88

第3章 「政策」は誰のためのものか P103

- 1 男性のための福祉国家 P104
- 2 政策は誰の利益を反映するのか P119
- 3 福祉国家が変わりにくいのはなぜか P131
- 4 政策の変化はどのようにして生じるか P140

第4章 誰が、どのように「政治家」になるのか P153

- 1 日本政治の二つの見方 P154
- 2 有権者は誰に票を投じるか P166
- 3 政党と政治家の行動原理 P178
- 4 選挙制度の影響 P188

おわりに P205

あとがき P213

3.著者紹介

1980年 東京都生まれ

2003年 東京大学文学部卒業

2011年 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了

著書『市民を雇わない国家—日本が公務員の少ない国へと至った道』東京大学出版会、第37回サントリー学芸賞

4.選定理由

1. 日本の男女格差について知る
2. 日本のフェミニズムについて知る
3. ジェンダー問題の取り組み
4. 民主主義の定義について知る
5. 世界の先進国と比較して考えるため
6. 日本の選挙制度について知る
7. 男性の候補者が女性の候補者に比べて選挙で強い理由
8. 女性の議員が少ない理由
9. 女性政治家の増加の方策
10. 日本の政治について興味を持つため